

せわやがとカラ情報

十島村教育委員会
〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号
TEL 099-227-9771

一隅を照らす十島の教育

島民の読書熱高まる！

平成26年度5月から、セブンアイランド移動図書館の巡回に加えて、県立図書館の「貸し出し文庫」を利用した巡回を始めました。そのため、今年度は、子どもも大人も昨年度よりかなり利用冊数が増えました。



＜セブンアイランド図書＞

小中学生では、昨年度の総利用冊数651冊に対して今年、なんと1,105冊と、昨年の約1.7倍となりました。成人・幼児では、昨年度の793冊に対して、1,231冊と、昨年の1.6倍となりました。総利用冊数が892冊(昨年度の1.36倍)増えました。

小中学生は年間平均13冊、成人・幼児は2冊利用したことになり、全島民にすると、一人当たり年間3冊から4冊は利用したことになります。利用の仕方は島によって、あるいは子どもと大人によって差はありますが、この傾向がさらに上向いてほしいと思います。学校やコミュニティーセンターに置いてあるセブンアイランド図書や県立図書館の「貸し出し文庫」を、さらに多くの島民の方々が利用されることを期待しています。



＜県立図書貸出文庫＞

今年も、島民の皆さんから希望していただいた本を購入して、4月中旬には各島から一斉にセブンアイランド図書の巡回を始める予定です。県立図書館「貸し出し文庫」の巡回は5月頃からの予定です。

☆小宝島ファミリー劇場☆

2月28日(土)、10月に予定していた小宝島ファミリー劇場が、やっと実現できました。みやまコンセールからプロの演奏家が、初めて十島村に行くこととなります。

27日(金)の出港時には、日曜日の上り便が決まらない中、みやまコンセールの4名の演奏家と小宝島へと向かいました。波は穏やかで、翌日の午前11時40分には小宝島港に到着しました。

午後1時半からは、学校で小・中学生のための「音楽教室」が開かれ、子どもたちを6つのグループに分けて、2時間にわたる楽器や合唱のレッスンが行われ

ました。初めての楽器に緊張しながら音が出るようになった時は、満面の笑みを浮かべて喜んでいました。

午後5時には、島民約40名が参加する中、「小宝島ファミリー劇場」が開催されました。サクソフォン、トロンボーン、ピアノ、声楽(バリトン)と4名のプロが次々と曲や歌を披露しました。クラシック、童謡、ポピュラーと、様々なジャンルの音楽にみんな熱心に聴き入っていました。特に、「レットイットゴー」や「花は咲く」などよく知っている曲では、一緒に口ずさむ姿も見えました。最後に、事前に練習した「夢の世界を」を、子どもたちが楽器伴奏で明るく元気な声で合唱しました。



次の日曜日、みやまコンセールの4名は学校に行き、子どもたちに「音楽教室」を開いてくれました。「校歌」や「小宝島慕情」も楽器伴奏で練習し、CDに録音することもできました。ファミリー劇場のおかげで、子どもたちは大きな音楽の土産をもらったようでした。

3月1日の早朝、フェリーとしまからのトロンボーンの演奏で、島民とお別れをしました。

十島村立の全小・中学校で土曜授業を実施

～子どもたちの学びをより確かなものに～
平成14年度から完全学校週5日制が実施され、すでに13年が経過しようとしています。この間、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たし、相互に連携しながら様々な教育活動を展開し、児童生徒の生きる力の育成がなされてきたところです。

十島村の全小・中学校では、児童生徒一人一人の生きる力(確かな学力・豊かな心・健やかな体)を育む教育環境をさらに充実させることから、月1回の土曜授業を実施します。

授業内容につきましては、十島村立小・中学校「土曜授業」実施要綱及び学校の実態等に基づき、各学校が決めることになっています。

保護者の皆様、地域の皆様方の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

■十島村立小・中学校の土曜授業について

- 1 基本的な考え方
 - (1) 児童生徒一人一人の生きる力を育むために、土曜日の過ごし方の現状等を踏まえ、学校、家庭、地域が連携・協力し合い、役割分担しながら、より豊かな教育環境を推進していく。
 - (2) 地域人材、地域資源等を効果的に生かした教育活動や、確かな学力、豊かな心を育む教育活動を推進していく。
- 2 平成27年度の土曜授業実施期間
平成27年4月から平成28年3月までの期間
月1回、原則第2土曜日(年間10回)
- 3 実施時間
午前中、3時間の授業を実施
- 4 土曜授業の内容
学校、家庭、地域が連携・協力し合い、土曜日に実施することの利点を生かしたより豊かな教育活動を推進する。

《学びを深める日(確かな学力を高める学習)》

- (1) よりよい学習の定着を目指し、確かな学力を高める学習
 - A 単元・月末テストなど、児童生徒の習熟の度合いを把握する学習
 - I 児童生徒の習熟の程度に応じた補充・発展的学習を主とする教科学習
 - U 地域のゲストティーチャー等を活用し、学びを広げたり深めたりする学習
 - E 表現力・言語活動等を深める学習
 - (2) 思いやりのある豊かな心を育む学習
 - A 道徳的価値をより深く追求し、「道徳性」を高める道徳の授業
 - I 地域の伝統芸能や音楽、演劇などに親しむ文化的な活動
 - U 本との様々な出会いを通して、視野を広げ、自分を見つめる読書活動
 - E 児童生徒の自治能力を高める児童会・生徒会活動
- 《多様な体験活動の日》

- (3) 教科等の学習内容を深める多様な学習や体験活動(「総合的な学習の時間」「創意」「学校行事」等の学習内容)
 - A 地域の豊かな資源等を活用し、地域をキャンパスにして学ぶ活動
 - I 「創意」活動や「総合的な学習の時間」の活動
 - U 様々なスポーツ活動や野外活動を通して健やかな体を育む活動
 - E 土曜日実施による、より効果的な学校行事(十島村立小・中学校「土曜授業」実施要綱から)

シリーズ——十島の学校にやってきて
平島小学校3年 中馬美南
「大すきな平島」

わたしが平島に来てから、もうすぐ一年になります。平島には、昔から伝わる行事がたくさんあります。その中の一つが、2月にあったカセグウチです。夜に山から下りてきたふっこ神という神様に、わたしたち

は水をかけて豊作をねがいます。ふっこ様に炭をつげられると、一年元気にすごすことができます。はじめてのカセグウチでは、炭をぬられるのがこわかったけど、みんなふっこ神に水をかけてみたら最後は楽しくなりました。



また、平島の方たちは、とてもやさしく親切にせってくれます。友だちや地いきの方たちといっしょにお話しをしながらあかひげ温泉に入ることができます。とっても気持ちがいいので、温泉の日を楽しみにしています。これからも、大好きな平島で楽しくすごしていきたいです。

十島村の小・中学校からのメッセージ ③

口之島小学校 教諭 浜田 昭人

「このおうち、たのしい」口之島に赴任した4月以来、3歳の娘がふとした瞬間に口にする言葉だ。「どんな所が楽しい?」と尋ねると「う〜んとね、ぜんぶ」との答え。その「ぜんぶ」には、学校の子も達や地域の方々、先生方が本当によくかわいがって、たくさんの生き物や自然と触れあえること、お父さんと遊ぶ時間が増えたこと…など、島の生活のすべてが当てはまるようだ。「どこに散歩に行きたい?」と尋ねると、「がっこう」や「のうえん」と答える。学校はお姉ちゃんとお兄ちゃんがいるから、農園は草取りが楽しいから…らしい。先日、農園に行くと、地域の方々が「かわいいね」「これ持っていきなさい」と採れたての大根をくださった。「ありがとうございます」と前屈かと思うくらい深く頭を下げる娘の姿を見て、優しいお顔がさらに柔らかな笑顔になった。そんな穏やかな光景を毎日、目にする。赴任当初から、地域の方々には公私にわたりお世話になっている。

赴任初日、朝早く暗いうちから皆さんが迎えてくださったこと、運搬や荷入れ、心からの歓迎会をしてくださったこと…あの時の皆さんの心強さと温かな笑顔は決して忘れない。今も、島の生活での様々なアドバイスや楽しいお話しをうかがうたびに思う。「この島に来ることができて本当によかった」と。3歳児と1歳児を連れての赴任は、正直、不安もあった。そんな自分に、前任校の校長先生は、ご自身の離島経験からこうおっしゃった。「欲しいものすべてがあるわけじゃない。でも、本当に大切なものはすべてあるよ」と。その言葉の意味を、今実感を伴ってかみしめている。思い描いていた「個別指導」に十分時間を割くことができること、日々子どもたちの成長を感じられることが何よりも嬉しい。口之島に来てから”本当に大切なものに囲まれ、教師としてはもちろん、親として多くの学びや気づきを日々いただいている。穏やかで健やかな生活。あたたかで実りある出逢いに、家族一同心から感謝している。